

森里海連環学 森 学習会

11月1日(日)

11月1日(日)、森里海連環学の第3回『森』に参加しました。森里海連環学では、この益田地域の森と高津川流域、そして益田海岸の関連を題材に学びます。今回はその最終回となる第3回で森の学習会でした。この地域では、森が豊かであることが川の豊かさを生み、清流日本一を唱う高津川を育て、高津川が豊かであることで沿岸に生息する魚介類が育まれていることを遡りながら学習しました。

今回は、津和野高校と益田高校合わせて12名の生徒の参加がありました。学校間の交流も含めて楽しい学習会になりました。まず、学校から約1時間30分バスに揺られて安蔵寺山の登山口まで移動しました。最初に講師の日原自然の会の皆さんの紹介があり、その後安蔵寺山周辺の自然について、土壌動物等も含めた豊かさの講義がありました。その後実際に約1100m付近まで登山道を登りながらブナやミズナラ、自然林のスギ林を観察しながら進みました。この時期の自然の中で分解者であるキノコの仲間は学習の大きな指標になります。目的の2つ目として、キノコの採集による学習も行いました。登山道からそれて、草本層にあたるササ群落をかき分けてブナの倒木や腐食土を捜し、たくさんのキノコを採集しました。お昼には、キノコを水炊きにしておいしくいただくこともしました。五感での学習は楽しいひとときでした。



~~~~~以下 参加した生徒の感想文の一部を掲載します。~~~~~

#### 1年 福島さん

今回は、森の学習会へ参加しました。印象深かったのはやはりキノコ採集です。登山道からそれると、思いの外ササが密集して生えていることを実感し、自然であふれていることを感じました。採集したキノコの分類では、似ているキノコも食べられるものから猛毒を持つ物まで様々であることに驚きました。以前の川と海の額種でも思いましたが、私たちは、自然の恩恵を受けて暮らしていることを実感することができました。護っていくべき自然だと思います。

#### 1年 山崎くん

私は、キノコ採集は初めてでした。キノコはその辺に生えているものだと思っていたのですが、実際には落葉の間を注意深く見たり、倒木の枝の間から生えているものがあつたりと、キノコが好むところを考えてみれば当たり前のことに実際に気づかせてもらえた。実際に触てみると、柔らかさも様々でキノコの多様性にも驚かされた。「ヒラタケ」は初めて食べたが、美味しかった。

#### 1年 亦賀くん

森の中でキノコのことだけでなく、天然林と人工林の違い、木の種類や植生についても学びました。キノコ採集では、急な斜面を移動しながら倒木や草本をかき分けて探すのは大変でした。また、自然のキノコでは、成長が進むと胞子を放出してカサが古くなるとどのように変化していくのかも学びました。スーパーで購入するキノコ類は、食べるために最も適した時期に店頭に並んでいることも感じました。昼過ぎには、キノコの分類学習をするとともに採集したキノコを食べました。やはり、自然に生えているものはとてもおいしかったです。キノコに植物に実物を見て触れて深く知ることができました。

#### 1年 増野くん

登山道に入る前の講義では、自分の聞いたことのない虫や土壌の分解者たちがたくさんいることを知って驚いた。この森の倒木をたくさんの分解者が分解して土に戻し、その土をまた森の植物たちが吸収していることを知った。その分解者の一員がキノコ達であることを知った後にキノコ採集ができたことは得した気分だった。実際に採集してみると様々な種類のキノコが採集できて驚いた。分類するとともに湯がいて食べることもできた。特にナメコは、一般的に売っているものより随分大きく美味しかった。

#### 2年 保田くん

私は、今回2回目の参加でした。今回も大木のブナのを観察しながら登山道をのぼったのですが、昨年と違い1年生の3学期に生物で夏緑樹林を学んでいたので中国山地の1000mを越える地点が立派なブナの大木に囲まれて森林になっていることを去年より深く感じながら歩くことができました。登山道を歩きながらブナとミズナラの木を教えてもらい、2回目で覚えることができました。また、最初の講義と合わせて、ブナの大木が倒れる→その倒木をキノコや土壌動物などの分解者が分解し土になる→その土の中の様々な無機物をブナの森が再び吸収するという物質循環の視点でも森を眺めたり感じたりすることができました。その分解者として、キノコにも倒木を直接分解する菌根菌や土壌を分解するキノコなど様々なキノコがいることも知りました。今年も採集後、キノコを茹でて食べましたが、昨年とはひと味違った感慨がありました。